

明治家実列⑱

遠藤敬止

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道



仙台と会津

仙台で生まれ育った人にとって、会津は小学校の修学旅行の地として、思い出深い場所ではないでしょうか。野口英世記念館、猪苗代湖、磐梯山、鶴ヶ城、飯盛山といった所が定番のコース。土産物の木製の刀を買ったものの、宿や帰りのバスの中で折ってしまった、という思い出を持つ人はいませんか？

東日本大震災後、めっきり観光客が減った会津でしたが、大河ドラマ「八重の桜」で息を吹き返しつつあるようです。そんな会津のシンボルは、やはり会津若松城（鶴ヶ城）でしょう。近年、櫓の復元や天守の瓦を江戸時代と同じ赤瓦にするなど、整備が進む会津若松城が今日あることに、仙台ゆかりの人物が大きくかかわっていることをご存じでしょうか。その人物の名は遠藤敬止といえます。

会津出身の実業家

遠藤敬止は、嘉永二（一八四九）年、会津藩士の子として江戸で生まれました。幼い時からその才能を認められた敬止は、江戸幕府が設立した洋学の研究・教育機関である開成所に入学し、英語を学んでいます。

しかし、戊辰戦争の勃発により、戦いに身を投じた敬止は、敗戦によって囚われの身となります。その後、釈放された敬止は、貧窮にあえぎながらも英語の講師で収入を得、「国を富強にするには、商業を振興すべき」とい

う考えから、慶応義塾で経済学や簿記を学びました。持ち前の才で、これらの学問を修めた敬止は、大蔵省で簿記の講師となり、さらに渋沢栄一に見いだされて、第一国立銀行に職を得、実業家としての道を歩み始めます。

そして明治十一（一八七八）年、渋沢栄一の支援を受けて第七十七国立銀行が設立された際、銀行経営のエキスパートとして仙台へ派遣されたのが遠藤敬止でした。敬止は、よくその任を果たし、明治十四年には、第七十七国立銀行の第二頭取の地位に就きました。その後、ごく短期間、職を辞したこともありますが、明治三十七年に没するまで、二十年余り、頭取として七十七銀行を牽引したのです。

この間、渋沢の肝いりで明治十三年に商業振興のために宮城商法会議所（仙台商工会議所の前身）が設立されると、敬止は三十二歳の若さにして、その初代会頭に任じられました。さらに、明治二十二年には仙台市の初代収入役に任じられ、明治二十八年には仙台商業会議所の第二代会頭にも就任しています。敬止の経済に関する知識や手腕が、いかに仙台で認められたかを窺い知ることができます。

理財の才と社会貢献

明治十五年、宮城県内の著名人を紹介した「宮城人物見立一覽表」という印刷物があります。この「一覽表」の「理財家」のところに遠藤敬止の名前が記されています。実は仙台に居を構えた敬止は、土地への投資によって

巨富を得ていたのです。明治の仙台人たちは、敬止の有能さを認めながらも、一方では彼の財産形成を、羨望と妬みが入り混じった、複雑な気持ちで見送っていたようです。

しかし、敬止は単に蓄財に励んだだけではありませんでした。例えば、明治十九年に富田鉄之助らが、仙台に東華学校を設立（校長は新島襄）した際、敬止もこの挙に加わり、一万円（当時の一円は、おおよそ現在の二万円に相当）もの資金を寄付しています。ほかにも、さまざまな事業に支援を惜しまなかった敬止のことを、「善く（財産を）散じ、心を公益に傾く」と評した文章や「人望家」と記した資料も残っています。

そうした敬止の行動で最も有名なのが、会津若松城の払い下げです。明治二十三年に政府が城の払い下げを決定すると、敬止は「城跡には、戊辰戦争で亡くなった幾千もの魂が残っている」と募金を集め、私財を加えた二千五百円で払い下げを受け、旧主の松平家に寄贈したのです。

明治三十七年、敬止は五十六歳で惜しまれながら没します。その後、城跡は会津若松市に譲渡され、会津のシンボルとして今に至っています。会津若松城の一角にはこの経緯を記した碑が造立され、毎年、敬止を顕彰する行事も行われています。敬止の志は、会津の人々の心に今でも大事に残されているのです。



明治35年に建てられた遠藤敬止の住宅。宮城県における洋館住宅の代表例であったが、戦災で焼失した

仙台市史

好評発売中

通史編6 近代 1

明治時代の仙台 近代化とそのくらし

◆A5判 520頁 オールカラー ◆定価3000円(本体2858円)



芭蕉の辻にあった七十七銀行本店は、明治36(1903)年に建てられたドーム型の近代的な建築であった。その後、昭和16(1941)年には日本銀行の仙台支店となった。

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館/櫛宮城県教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074